

協会活動の目的

この会は、日本政府の侵略戦争の歴史を教訓にして、日本と中国が再び戦うことのないよう、日中両国民の相互理解と友好を深め、平和五原則にもとづく両国関係の発展に寄与し、アジアと世界の平和に貢献することを目的とする。

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会

〒111-0053
東京都台東区浅草橋5-2-3 鈴和ビル5階
電話 03(5839)2140(代) FAX 03(5839)2141
https://www.jcfa-net.gr.jp/
E-mail: nicchu@jcfa-net.gr.jp
振替 00110-1-21176
定価(税込)1部140円 (毎月5の日、月3回発行)
購読料は会費(1カ月900円)、準会費(1カ月400円)
に含まれます (別途送料123円)

2019年
3月15日



14歳から工場勤めを
始めましたが、周囲か
ら「日本鬼子」と罵り
続けられ、「遠くへ行
きた」と、18歳年
の離れた農村の男性と

14歳から工場勤めを
始めましたが、周囲か
ら「日本鬼子」と罵り
続けられ、「遠くへ行
きた」と、18歳年
の離れた農村の男性と

14歳から工場勤めを
始めましたが、周囲か
ら「日本鬼子」と罵り
続けられ、「遠くへ行
きた」と、18歳年
の離れた農村の男性と

14歳から工場勤めを
始めましたが、周囲か
ら「日本鬼子」と罵り
続けられ、「遠くへ行
きた」と、18歳年
の離れた農村の男性と

14歳から工場勤めを
始めましたが、周囲か
ら「日本鬼子」と罵り
続けられ、「遠くへ行
きた」と、18歳年
の離れた農村の男性と

14歳から工場勤めを
始めましたが、周囲か
ら「日本鬼子」と罵り
続けられ、「遠くへ行
きた」と、18歳年
の離れた農村の男性と

14歳から工場勤めを
始めましたが、周囲か
ら「日本鬼子」と罵り
続けられ、「遠くへ行
きた」と、18歳年
の離れた農村の男性と

日本人でありながら、日本人と認められていない中国残留孤児の女性がいまいます。彼女の名前は郇鳳琴さん。縁あって、昨年8月に熊本県に住む日中友好協会会員の残留日本人孤児・庄山紘宇さん(80歳)と結婚し、年末に日本へ帰国。郇鳳琴さんに激動の半生を伺いました。

生母は帰国を拒み
政府は孤児と認めず

中国残留孤児の女性 74年ぶりの帰国



結婚。その後起こった「文革」(1966〜76年)で、父を戦争で亡くした夫からも責められ離婚。養父が亡くなる時に、生母との取り交わし書を手渡され、「日本へ帰ろう」と思い立ちました。

厚生労働省は、戸籍に名前がないとの理由で帰国の申請を却下。両親とも日本人であるという証明がなく、郇さんは日本人残留孤児と認められませんでした。後に郇さんは生母から帰国を望まれていないことを知られま

心を支えた
残留孤児支援活動
日本への帰国を果たせぬまま30年以上がたち、生母や再婚した夫も死去。心の支えとなつたのは残留孤児の支

援者や支援団体との交流でした。その中で現在の夫となる庄山さんとの知己を得ます。

17年、江戸東京博物館で開かれた残留孤児展に参加した機会に、庄山さんが暮らす熊本県を訪れ、結婚を決定。中国にいる息子には「もう帰らない」と言い残して、昨年12月9日に帰国しました。

その後、風邪の症状で病院にかかり、咳と胸の痛みが出て結核と診断され、日本での正月は入院生活に。日本語がでない郇さんですが、隔離病棟に収容されました。外部との連絡も閉ざされ、「電子辞書と筆談で医師や看護師と意思疎通しなければなりません」

今号の記事

- 2面 中国レーダー、中国の自然を訪ねて
協会役員が中国大使館を訪問
- 3面 日中友好運動とともに、中国は「無法地帯」か?
- 4面 東西南北、読者のひろば
- 5面 私と中国、東西南北、日中・中国関係2月の動き
- 6面 中国百科検定初級はどんな問題?④、シリーズ全国の太極拳教室紹介、インフォメーション
- 7面 日中漢字比べ、中国映画(明星)物語、中国チベットタンカ芸術展を見て、本の紹介
- 8面 中国的生活、漢語の散歩道、書評

熊本城稲荷神社前で記念撮影

援者や支援団体との交流でした。その中で現在の夫となる庄山さんとの知己を得ます。

17年、江戸東京博物館で開かれた残留孤児展に参加した機会に、庄山さんが暮らす熊本県を訪れ、結婚を決定。中国にいる息子には「もう帰らない」と言い残して、昨年12月9日に帰国しました。

その後、風邪の症状で病院にかかり、咳と胸の痛みが出て結核と診断され、日本での正月は入院生活に。日本語がでない郇さんですが、隔離病棟に収容されました。外部との連絡も閉ざされ、「電子辞書と筆談で医師や看護師と意思疎通しなければなりません」

心を支えた
残留孤児支援活動
日本への帰国を果たせぬまま30年以上がたち、生母や再婚した夫も死去。心の支えとなつたのは残留孤児の支

た」。2月中旬ようやく退院し、今は自宅で療養中です。

これまで数回来日したことがあるとはいえ、日本での生活はまだまだ不慣れな郇さん。「ハルビンの家は全館暖房。日本の団地はとても寒い」。それでも「日本に帰ることは一生の望みだった。帰って来れば本当にうれしい」。

現在、郇さんの滞在は1年間。毎年更新が必要。今後の課題は、「厚生労働省へ日本人残留孤児の認定を再び求めていく」こと。なんとしても、一日も早く「日本人としての自分」を取り戻したいという「胸のうち」を力強く語りま

(猫)